

しよだいとくだ や そきちさく くたにしょうかくもんきゅうかくおおざら  
初代徳田八十吉作 九谷松鶴文九角大皿

種 別	小松市指定文化財 工芸品
指定年月日	昭和44年11月1日
所 在 地	小松市立錦窯展示館

初代徳田八十吉は、明治6年(1873)、小松町字大文字町で染物屋を営む徳田伊助の長男として生まれた。荒木探令・山本永暉に日本画を、義兄の松本佐平に九谷焼の絵付を学ぶ。顔料・釉薬の研究につとめ、古九谷風の色絵と、深厚釉という独特の色調の釉薬を作るに至った。昭和28年(1953)には、「上絵付(九谷)」の技術で国の無形文化財に選定され、昭和31年82歳で没した。門下からは浅藏五十吉(2代)や2代徳田八十吉、3代徳田八十吉などを輩出している。

この大皿(口径36.3cm)は、国の文化財保護委員会に収めた技術記録作品の控作で、昭和30年7月に製作されたものである。九角の縁に沿って菱形の割小紋を描き、中央の円窓には松と鶴の絵文様が描かれる。形・文様とも古九谷の構成で作られるが、線描・彩色ともに丁寧に仕上げられ、松鶴紋には八十吉が若き日に学んだ日本画の技術が見てとれる。技術伝承の記録作品として、注目すべき作品である。

